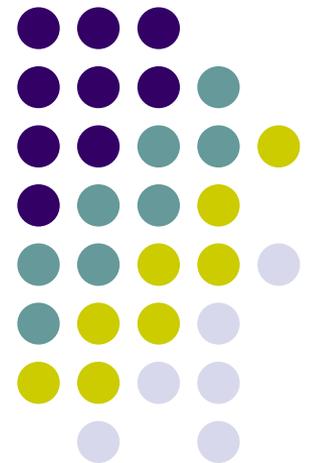


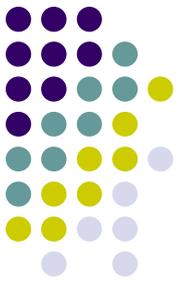
バック事故防止のポイント

山本商運株式会社

2019年3月9日



バック事故を防ごう!!



バック事故は、
その多くが物損事故で済むため、
事故統計には実態が現れません



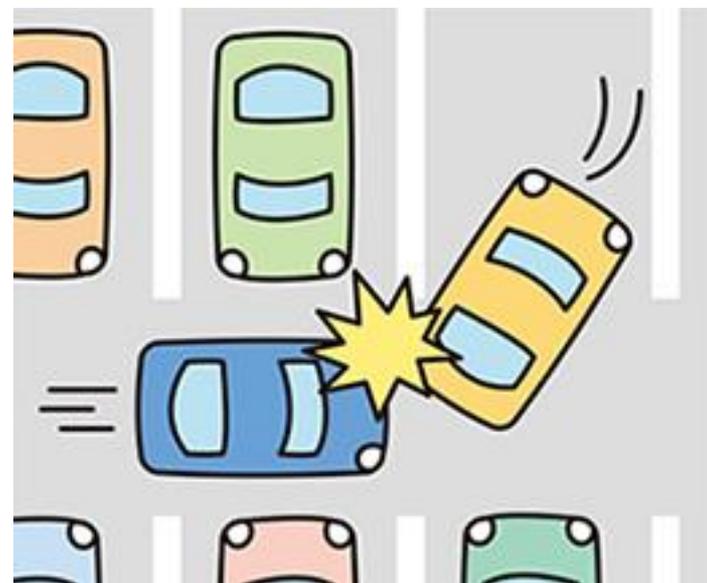
バック事故を防ごう!!

しかし・・・

交通事故としては、多発事故のひとつです。

全体の7割この4事故

- ・追突事故 21.1%
- ・バック時の事故 18.1%
- ・出会い頭事故 17.7%
- ・右左折時の事故 13.4%





■ 気になるものが多いと、不完全!!

駐車場など、
気になるものが多い場所では、
危険要因を順番に
確認できないままバックして、
接触してしまうことが多いので、
注意しましょう。





ポイント

- ①他車が待っていても慌てない
- ②曲がりながらバックするときには、前方にも注意する
- ③ミラーやモニターに頼らない
- ④確認しにくい左後方に注意
- ⑤一気にバックしない





■ 死角のある方向にバックする時は 事前確認を!!

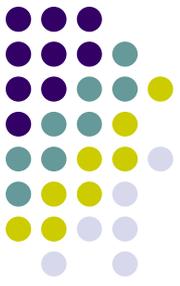
- ・見通しの悪い交差点などでバックする場合や死角のある方向に曲がってバックする場合は、事前に見えない死角の安全を確認する必要があります。
- ・車を路地などに入れたときは、壁などの陰には何もなかったからといって、バックするときにもないとは限りません。（少し時間が経った後で車が来て止まっているかも知れません。）



■ 死角のある方向にバックする時は 事前確認を!!

- ・また、交差車両が来るかどうかはミラーだけで確認できません。特に、自転車など見落とししやすいので注意しましょう。





ポイント

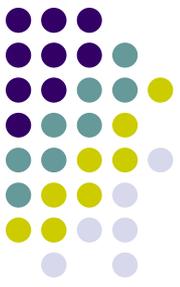
- ①車から降りて死角の安全を
目で見て確認してからバックする
- ②歩くくらいスピードでバックする
- ③自転車などが来ることにも
気を気張る





■ 急いでバックする時に危険がある!!

- ・狭い場所などバック操作の難しい場所でも、ゆっくりバックし、何度も切り返せば接触事故を防ぐことはできます。
- ・バック事故は急いで操作したときに起こりやすいことに注意しましょう！



ポイント

① 次の納品先などに急いでいるとき

② 前に出過ぎているなどと感じて、慌てて後ろに戻るとき

③ 前を塞がれたことに憤慨し、急いでバックしようとしたとき





■バック事故防止5つのポイント!!

1.少しでも不安を感じたら、
降りて後方を確認する



2.バックモニターやアラームブザーに頼らない

3.常に、人が歩くくらいのスピードで後退する

4.同乗者や周囲に人がいるときは
誘導してもらおう

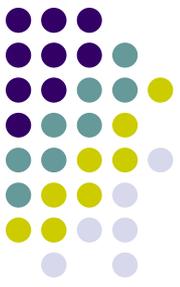
5.なるべくバックしないで済むように工夫する



皆さん想像してください!!

長距離輸送を担当されるドライバーさんが、眠い目をこすりながら500キロメートルを無事に運行し、やっとの思いで配送先様に到着。

到着後、たかが5メートルの距離をバック走行する際にバック事故が発生。



皆さん想像してください!!

せっかく頑張って到着したのに・・・その運賃（売り上げ）よりも高い弁済金がドライバーに押し掛かってしまう。

500キロメートルと5メートルを比較すれば
“10万分の1”の確率。

「もったいないと思いませんか？」



皆さん想像してください!!

しかも、バック走行は構内で接車時に行うことが多いのが特徴。

もしも出荷主様はもちろん配送先様でのバック事故が発生した場合は、

「荷主様への報告義務が発生→安全性低下→信頼低下→取引にも影響」

するなど負の要因だらけ。

「実にもったいないと思いませんか？」



皆さん考えてください!!

もしも全交通事故件数の半数がバック事故なら“2分の1”の確率。

バック走行をする距離は“10万分の1”なのに、バック事故を起こす確率は“2分の1”ということです。

「だから実にもったいないと思いませんか？」



皆さん考えてください!!

この考え方を正しくご理解していただけたなら

バック事故は無くなるでしょう。。。。